

村上の国有林における取組

—令和3年度—

下越森林管理署
村上支署



- 民国連携森林整備推進協定運営会議の開催
- 国民参加の森づくりについて(社会貢献の森)
- ふれあいの森(瀬波夕日の森)ボランティア活動
- お幕場海岸防災林造成工事

■ 民国連携森林整備推進協定運営会議の開催

【目的】

民有林と国有林が連携して情報交換を行い、効率的かつ低コスト間伐等の実施等に努めるため、令和3年10月20日に現地説明と運営会議を実施しました。



【現地について説明】



【間伐2伐4残について説明】

【内容】

村上地域振興局及び地元市町村、森林組合等協定関係者が集まり、令和3年度事業実行箇所での路網整備状況や2伐4残による間伐事業実施状況の現地説明を行いました。

運営会議にて、令和3年度の事業実行状況及び令和4年度予定について説明しました。また団地内での低コスト施業等に関する現地検討会の実施や継続的な就業を図るため、林業従事者及び新規就労者の育成に向けた取組を共同でできないか意見交換を実施しました。



【路網について説明】



【運営会議】

【成果】

新規就労者の育成に向けた取組については、県による緑の雇用事業により一定の成果が得られているので、別途の取組は必要ないのではないか等の意見が出されました。

また、団地内での現地検討会の実施を共同で行うことについては、令和4年度は見送ることとなりました。

【今後】

マスコミ等にも紹介しながら、まずは単独で現地検討会を実施し、参加関係機関と盛り上がる事ができれば、徐々に積極的な意見も出てくるのではないかと思います。

■ 国民参加の森づくりについて(社会貢献の森)

【目的】

「快適な環境を形成する源泉は、豊かな森にある」という基本認識の基に、三面川流域を「さけの森林」として整備・保全を促進し、後世に引き継ぐことを目的として、平成11年から「さけの森づくり推進協議会」と協定による保全活動が続けられてきました。



【植栽作業】



【支柱の設置】

【内容】

当初設定された区域は奥地であり、また長年の活動により現地の整備も進み、さけの森づくり推進協議会も高齢化が進んだことから、移動もしやすく子供たちでも利用しやすい場所で本活動をする事ができないか等の要望があったことから新たな場所の選定に当支署として取り組みました。

【成果】

村上支署内で検討した現地を踏査したところ、旧館腰苗畑付近が平坦で町場にも近いことから候補地としました。

【今後】

令和4年4月に村上支署HPにて公募を行い、令和4年7月を目安に新たな協定締結を目指しています。

■ ふれあいの森(瀬波夕日の森)ボランティア活動

【目的】

昭和50年代から全国的にマツクイムシ被害が蔓延し、大きなアカマツが次々と枯れてしまいました。平成8年から「白砂青松」の美しい松林再生活動が始まり、平成12年3月に市民による自主的な森林整備活動の場として約76haを松林の再生と森林の重要性を学ぶことを目的とした「ふれあいの森協定」を締結し保全活動を続けています。

【内容】

瀬波温泉旅館経営者で作る「潮風会」をはじめ、瀬波地区区長会、市立瀬波小学校生徒、県立村上中等教育学校生徒、一般ボランティアも参加の上、毎年の恒例行事として松林再生に向けた森林づくりを行っています。

【成果】

現地の森林整備は基より、地元と一体となつての継続的な環境保全活動によって環境に対する意識が高まっていると考えます。

【今後】

引き続き継続し、地元環境保全活動に寄与していきたいと考えます。



【現地説明】



【刈払作業】

■お幕場海岸防災林造成工事

【目的】

高波による海岸浸食を原因とする植栽木の流失、林地の後退防止。
(新潟県村上市塩谷字砂山1325国有林1415は3林小班外)

【内容】

平成27年から令和3年までの間、海岸浸食が最も激しく国有保安林の被害の大きい区間約400mに対して、防潮護岸工12.60m、木製法枠工75.65㎡、丸太防風柵工61.5mを実施しました。

【成果】

海岸防災林の保全はもとより、丸太防風柵及び法面保護工として木製鉄芯軽量法枠工を採用することにより、木材利用の推進を図ることができました。

【今後】

令和3年度で完成いたしましたので、経過を観察していきたいと考えます。

